

# 石神井川整備事業 (練馬区上石神井四丁目～ 同区関町北四丁目)

令和2年8月21日(金)

建設局河川部

# 目次

1. 事業概要	.....	1
2. 社会経済情勢等の変化	.....	6
3. 事業の投資効果	.....	8
4. 事業の進捗状況	.....	11
5. 事業の進捗の見込み	.....	14
6. コスト縮減等	.....	15
7. 対応方針(原案)	.....	16

# 1. 事業概要

## 位置図



【事業評価区間】  
石神井川 練馬区上石神井四丁目～同区関町北四丁目



# 1. 事業概要

## 流域図

流域面積：73.1km<sup>2</sup>  
河川延長：25.2km  
(都市計画延長：22.5km)

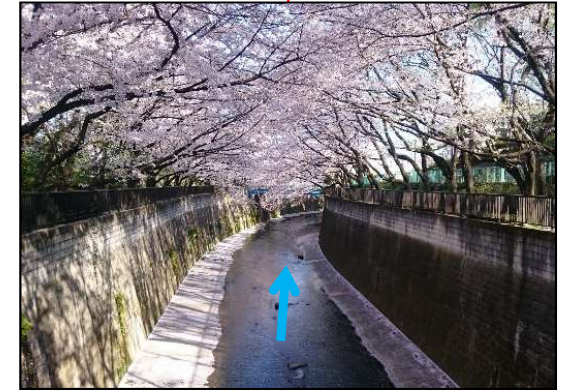
凡例	
	一級河川：東京都知事管理
	石神井川 流域界



すみれ  
菫橋上流側



あたご  
愛宕橋下流側



かがみどり  
加賀緑橋下流

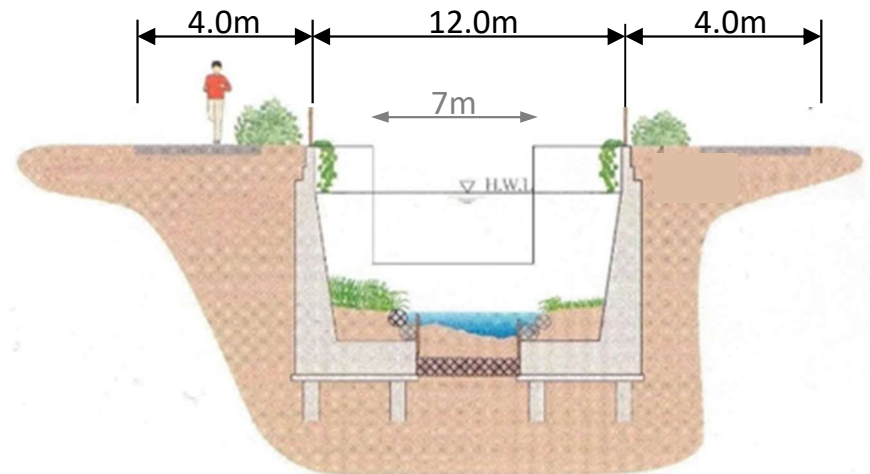
# 1. 事業概要

石神井川流域では、時間75ミリの降雨に対応するため、時間50ミリの河道整備と調節池の整備を行うとともに、うるおいある水辺空間の創出を図っている。

## 整備状況図



## 整備断面図



凡例

- 整備済
- 未整備

護岸整備率 約75% (令和元年度末時点)



# 1. 事業概要

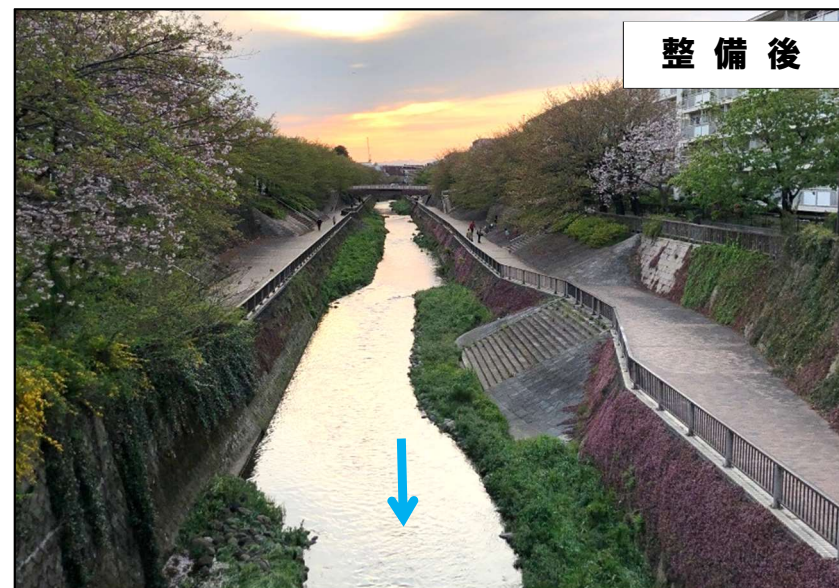
## 整備イメージ



川幅が狭く、流下能力が不足



河道拡幅による流下能力の向上



緩傾斜護岸や遊歩道の整備により親水性のある水辺を形成

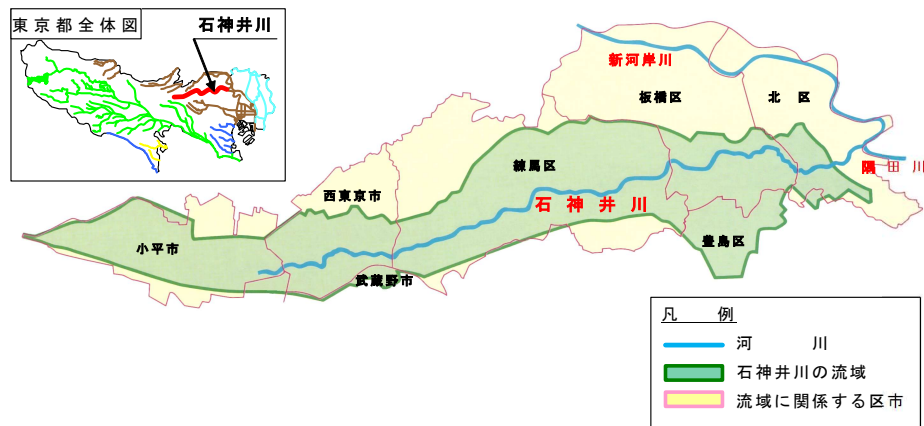
# 1. 事業概要

## 経緯

年度	計画等
昭和37年	都市計画決定（当初）
平成17年	河川整備計画 策定
平成21年	事業認可（当初） 平成21年度～平成27年度
平成27年	事業認可（延伸） 平成21年度～令和4年度

## 2. 社会経済情勢等の変化

### 土地利用状況の変化



石神井川河川整備計画より



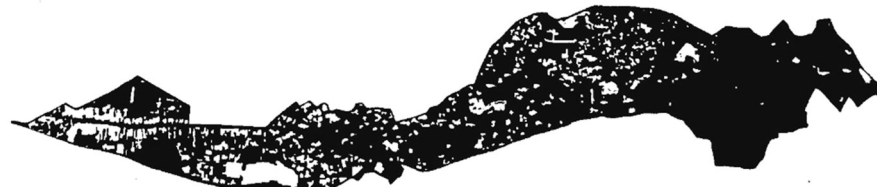
【昭和初期】  
市街化率 約19%



【昭和30年代】  
約38%



【昭和40年代】  
約79%



【平成5年】  
約87%

昭和30年代は下流域での市街化が進んでいる。

昭和40年代には、中・上流域の市街化が急激に進み、市街化率は平成5年時点で約87%に達しており、流域全体がほぼ市街化されている。

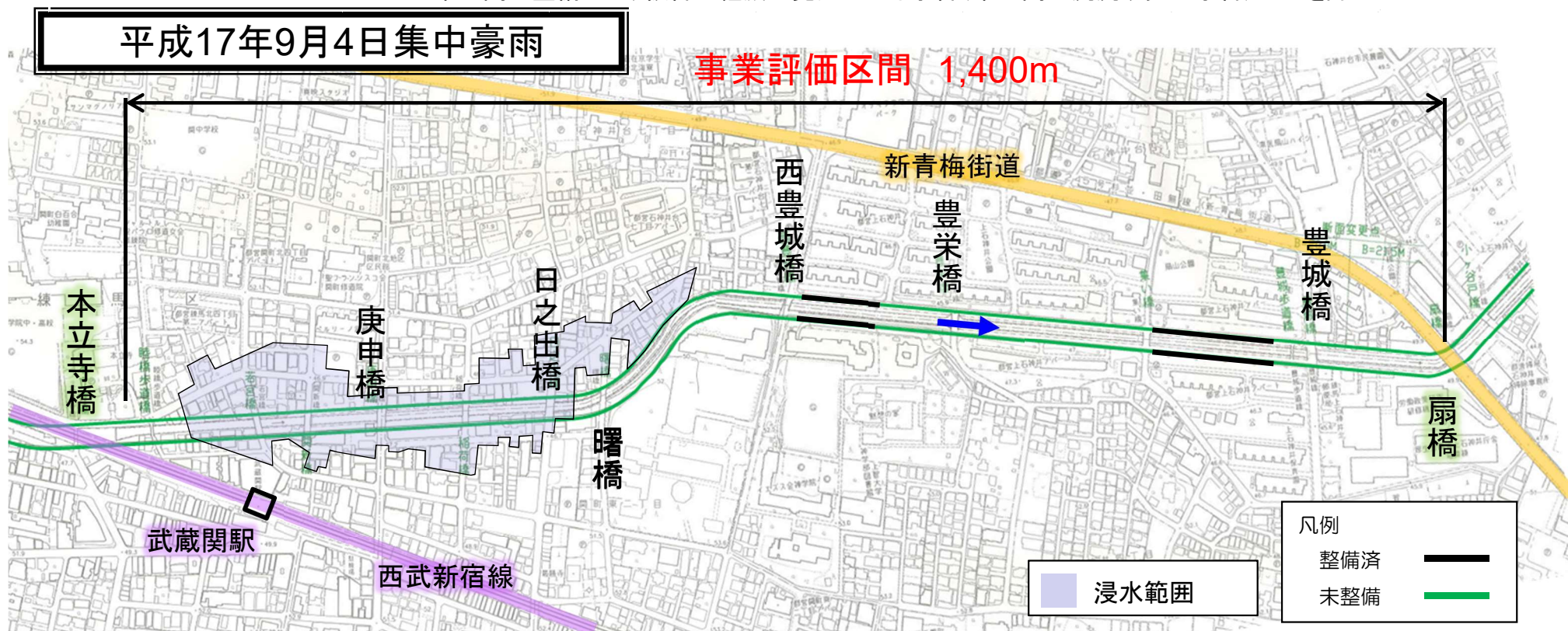


## 2. 社会経済情勢等の変化

### 過去の水害実績

年月日	浸水被害※				
	面積(ha)	床下(棟数)	床上(棟数)	被害額(千円)	原因
平成17年9月4日	0.51	41	43	202,176	内水、溢水
平成18年9月11日	0.34	21	10	59,591	内水
平成25年8月12日	0.01	2	0	1,593	内水
平成26年7月24日	0.36	13	5	48,490	内水
平成29年8月19日	0.17	11	13	215,156	内水
平成30年8月27日	0.05	1	7	54,996	内水

※本区間の整備により被害の軽減が見込まれる水害(本区間上流流域発生水害)のみを計上



## 2. 社会経済情勢等の変化

### 災害発生危険性

本区間より下流は、東京都の整備計画目標である50mm/hの降雨に対応した護岸が完成している。一方、本区間は30mm/hの降雨に対応した護岸であり、川幅が著しく狭くなっているため水害が発生する危険性がある。

平成29年8月19日の出水状況（稲荷橋）

平常時



出水時（17:19（護岸天端-64cm）



平常時

曙橋の狭窄状況



出水時



# 3. 事業の投資効果

## 定量的効果【費用対効果分析】

### 【河川改修事業に関する総便益（B）】

河川改修事業に係る便益は、整備により効果が見込まれる本区間上流流域において、家屋、農作物、公共施設等に想定される被害に対して、年平均被害軽減額を「治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月国土交通省水管理・国土保全局」に基づき計上

- 現在価値化総便益額（B）  
約1568.2億円の便益が発生

被害軽減効果①	約1559.9億円
残存価値②	約8.3億円
総便益(①+②)	約1568.2億円

### 【河川改修事業に関する総費用（C）】

河川改修事業に係る費用は、本区間より上流端までの工事費、用地補償費及び維持管理費を計上

- 現在価値化総費用額（C）  
約302.2億円の費用が発生

工事費①	約215.2億円
用地補償費②	約55.5億円
維持管理費③	約31.5億円
総費用(①+②+③)	約302.2億円

### 【費用便益比（B/C）】

$$B/C = \frac{\text{便益の現在価値化の合計} + \text{残存価値}}{\text{建設費の現在価値化の合計} + \text{維持管理費の現在価値化の合計}} = 5.2$$



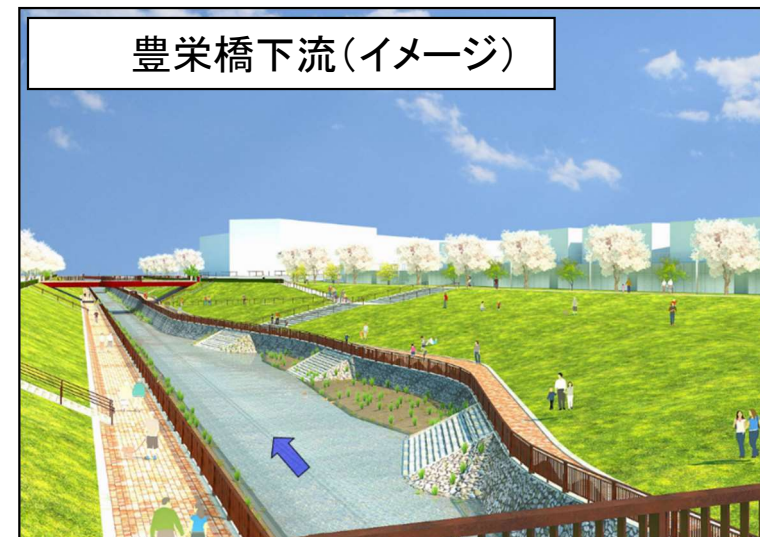
# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果 【内水被害軽減】

河川改修により、下水道の整備が一層促進されるため、河川沿いの浸水被害だけでなく、流域内の内水被害軽減に寄与する。

## 定性的効果 【親水性の向上】

一部区間では緩傾斜護岸などを整備するため、親水性の向上や、動植物の生息環境などの向上を図ることができる。





## 4. 事業の進捗状況

### 事業費の執行状況

令和元年度末時点

	用地費	工事費	合計
全体事業費	4,128百万円	9,883百万円	14,011百万円
執行済額	1,667百万円	2,126百万円	3,793百万円
執行率	40.4%	21.5%	27.1%

### 用地取得状況

令和元年度末時点

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B / A)
5,600 m <sup>2</sup>	1,980 m <sup>2</sup>	35.4%

# 4. 事業の進捗状況

## 事業の進捗状況等

### ○ 工事の進捗率

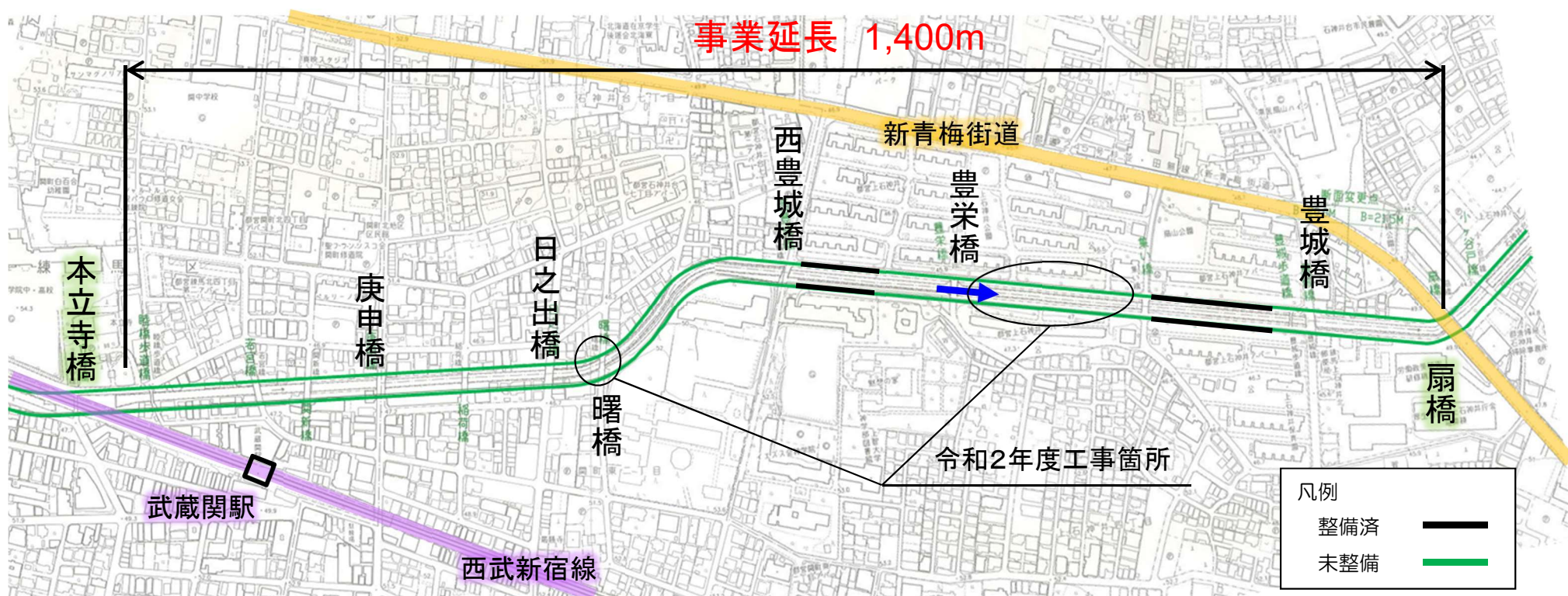
平成26年度着手

令和元年度末までの整備率約17%

(全体延長1,400mのうち244m整備済み)

### ○ 残事業

・ 用地取得 3,620㎡    ・ 護岸整備 1,156m    ・ 橋梁架替え 11橋



# 4. 事業の進捗状況

## 一定期間を要した背景等

- 権利者が多数の区分所有マンションやアパートが複数あるほか、戸建住宅についても沿川に連担しており、用地取得までに時間を要している。



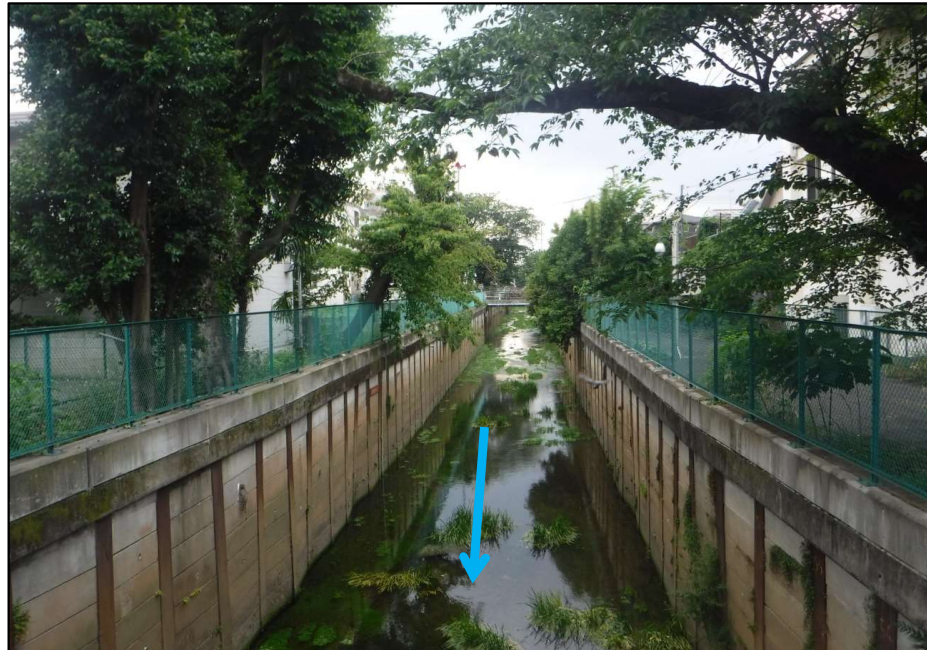
沿川に連担する戸建住宅



# 5. 事業の進捗の見込み

## 今後の事業の進捗見込み

- 早期の用地取得に向け、水害の危険性や事業の必要性を十分に説明し、引き続き折衝を進めていく。
- 護岸整備を早期に完了させるため、一定規模の用地を確保した際は、複数箇所で行工事を実施していく。



護岸整備予定箇所（日之出橋上流部）



## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

### コスト縮減

- 現場発生土の再利用や、置きガードレールなどの仮設材を工事間流用する等、コスト縮減に努めていく。

### 代替案立案等の可能性

- 現時点では、新工法の採用や、事業手法及び施設規模の見直しの可能性はないと考えている。

## 7. 対応方針(原案)

- 石神井川は流域全体が市街化されており、水害による大きな被害が発生している。さらに、近年多発する局地的な集中豪雨等により、水害発生の危険性が高くなっている。
- 河川整備においては、うるおいのある水辺空間の創出や自然環境の保全・回復も求められている。



石神井川では、治水上の安全性を確保するとともに、河川環境の向上に努めた川づくりを進めていくため、現計画に基づき事業を促進することが必要である。

継 続